

# 角打ち座談会

～地方で起業する・働くリアル～

**参加無料** お酒を飲みながら語る  
地方で働く本音アレコレ

**1月30日(日) 18:00~20:00**

場所：Zoom(オンライン)  
主催：北九州市  NewU

抽選で**50**名様に  
プレゼント有り

2022年1月30日（日）、東京都渋谷区の会場で北九州市主催のオンラインイベント「角打ち座談会～地方で起業する・働くリアル～」が開催されました。

MCを務めたのはフリーキャスターの唐橋ユミさん。

毎週日曜日の午前8時から放送されているテレビ番組「サンデーモーニング」（TBS系列）などに出演している人気キャスターです。

もう一方の登壇者は、新潟県に本拠を置くIT企業・[フラール株式会社代表取締役会長の渋谷修太さん](#)。

2016年には世界的な経済誌「Forbes（フォーブス）」が年に1度選出する「アジアを代表する30才未満の30人（Forbes 30 Under 30 Asia）」に、ニューヨークヤンキース在籍（当時）の田中将大選手、プロテニスプレイヤーの錦織圭選手、体操の内村航平選手（当時）などとともに選ばれるなど、日本のIT企業をリードする若き起業家です。

北九州市からは、[門司港でゲストハウス・ポルトを運営する合同会社ポルト代表の菊池勇太さん](#)と、[北九州市を拠点にフォトグラファー・インスタグラマーとして活躍するAge-cox代表/株式会社しらすやまと代表取締役の栗山喬さん](#)がオンラインで登壇しました。

この「角打ち座談会」は北九州都市圏域（福岡県の北部に位置する18の市町）のお酒やおつまみを嗜みながら楽しく語り合うのがコンセプトです。

会が進むにつれ、ほろ酔いとなった登壇者からは続々と本音が。楽しい会話の中にも、地方で事業を行う経営者ならではの金言が多数飛び出し、今後地方で働くことを検討している方にとって参考になる話が盛りだくさんの座談会となりました。

座談会は、**唐橋さんと渋谷さん**のお二人でスタート。  
まずは1度目の乾杯です。

### 唐橋さんと渋谷さん

お酒：日本酒「純米吟醸 MONOGATARI」（直方市）

おつまみ：恵み高菜漬け3種セット（吉富町）と辛子高菜2セット（香春町）



米どころ・新潟出身の渋谷さんは乾杯の後ぐいっと飲み干し、「おいしい！」と一言。新潟では、“乾杯後の1杯は飲み干す”という文化があるとのことでした。

また、実家が福島県喜多方市の酒蔵「ほまれ酒造」で、自身も利き酒師の資格を持つ唐橋さんは「キレがいい」とコメント。

2種類のおつまみにも舌鼓を打ちながら、座談会が進みます。

まず渋谷さんに話を聞きました。

渋谷さんは新潟県の長岡工業高等専門学校出身。以前、「高専つながり」で北九州市に来たことがあるそうです。

2011年11月に茨城県つくば市でFULLER株式会社（旧社名）を創業した渋谷さんは、2017年に故郷・新潟県にオフィスを作ります。

きっかけは、会社の後輩が「実家に帰りたい、新潟に戻りたい」と悩んでいたこと。新潟にはIT企業が少なく、自分のスキルを生かせるような仕事はないと聞き「それはよくない」と思い新潟にオフィスを作ったそうです。

初めは、新潟でIT人材が集まるか半信半疑だったという渋谷さん。しかし蓋を開けてみると多くの人が集まり、現在新潟オフィスでは30人ほどの社員が働いているそうです。

渋谷さん自身も2020年に新潟にUターン。

新潟で仕事をするようになって、アウトドアやバーベキューなど外で遊ぶことが増えたそうです。

プライベートと仕事との壁がなく「仲良くしていたら、その結果ビジネスにつながった」ということもあったといいます

ここでゲストの菊池さんと栗山さんが登場。ふたりは既に「門司港地ビール工房のヴァイツェン」（北九州市）とミックスナッツ（北九州市）を堪能していました。

4人揃ったところで2度目の乾杯が行われました。

唐橋さん、渋谷さん：

お酒：日本酒「天の宙（あまのそら）」（北九州市）

おつまみ：ごぼうチップス(豊前市)とピクルス2本セット（築上町）



菊池さん

お酒：日本酒「純米吟醸 しんよしとみ」（上毛町）

おつまみ：等覚寺の漬物（苅田町）



栗山さん

お酒：日本酒「水辺のくに」（小竹町）

おつまみ：牛すじ煮込み（豊前市）



「起業するときの銀行の残高が6千円でした」と笑う菊池さん。

現在は門司港でゲストハウス「ポルト」の運営や、地元企業の外部取締役、新規事業のサポートなど、北九州市を中心に幅広く事業を行っています。コロナ禍で大変な思いをしつつも、起業してからは楽しく過ごしているそうです。

一方、趣味の写真をきっかけに資金ゼロで起業した栗山さん。事業開始時には「北九州のインスタグラマー」と呼ばれていましたが、現在はフォトグラファーとして世界的企業の商品写真の撮影や、地域のブランディングなどを中心に事業を展開。「北九州都市圏域の風景が自分を有名にしてくれた」といいます。

ここからは、地方での事業について4人で話をします。

栗山さんの「他地域での仕事が増えるにつれ、地元（北九州市）での仕事が減り、ここ3年間でわずか2件になってしまい寂しい」という話には、渋谷さんが「これは“地方あるある”です」と反応。「一番身近な人が一番価値に気づいていないという現象が起きています」といいます。これには菊池さんも大きくうなずいていました。

仕事を通じてもっと地域に貢献したいと考えていても、地域での評価より外部からの評価のほうが高くなりがちで、その結果他の地域からの仕事が多くなるといいます。

この状況を改善するには「身近にいる“とがったことをやっている人”を応援していくことが大事だと思います」と渋谷さんはいいます。

その後も話は盛り上がり、お酒もなくなってきたということで3度目の乾杯を行います。

### 唐橋さん、渋谷さん

お酒：3種類の日本酒飲み比べ 「九州菊」（みやこ町）、「みやわか宮桜」（宮若市）、  
「20s（トゥエンティーズ）特別純米酒」（行橋市）

おつまみ：きみしゃんお茶うけ（芦屋町）、くらてめんべい（鞍手町）



### 菊池さん

お酒：日本酒「純米酒戸切」（岡垣町）

おつまみ：さばのぬか炊き（北九州市）



### 栗山さん

お酒：日本酒「遠賀の雫」（遠賀町）

おつまみ：粒うに瓶詰（中間市）



ここからは、菊池さんと栗山さんが、北九州市の生活面で良いところを話します。

「北九州市では生活に不便なところはないです。車がなくても生活できます。地方と都会のいいところどりのような感じです」と話すのは菊池さん。

一方、栗山さんは「とにかく家賃が安いんですね。同じ広さだったら東京の半分程度です。場所によっては家賃5万円で一軒家を借りることも可能ですね。あと、11ヶ月の娘がいるんですが、子育てがしやすいだけでなく産後ケアが充実していることも魅力ですね」といいます。

話はさらに進み、核心の「地域での働き方」に話題が移ります。

渋谷さんは「今年は新潟と他の地域を結びたいと考えています。地方で頑張っている人同士がつながっていくと、課題感も共有しやすいので助け合えるんじゃないかと思っています。価値観が合わない東京をハブにせず、地方同士で結託すべきだと思います。僕はこれを「ローカルtoローカル」と呼んでいます。例えば、東京を介さずに、新潟と北九州で何かをやる、ということです」

この言葉に菊池さんと栗山さんは大きくなすきます。

菊池さんは「元々都市部にしかいなかった人が地方に分散し始めました。オンラインでもつながれるので、東京にこだわる必要もなくなりました」といいます。

人が地域に分散しているという話を受けて栗山さんは「自分がどこの地域のために働くとか、何のために働いているのかなど、原点回帰していると感じていますし、今後この流れは強くなるでしょう。ずっと地元にいる人はこのことを感じにくいと思うので、Uターンや移住をしてきた人と積極的に話すのが良いのではないのでしょうか」と、Uターンや移住をしてきた人とずっと地元にいる人とのコミュニケーションの大切さを話してくれました。

渋谷さんも「Uターンや移住をしてきた人は新しい価値観を持っている。これまで地域の中できっかけがなかっただけでチャレンジしたい人と交わることで輝けたりするんです」と、交流により生まれる相乗効果に期待を寄せました。

最後に、**視聴者からの質問に渋谷さん、菊池さん、栗山さんが回答しました。**

**質問：東京でのビジネスのニーズが地方のニーズとなりえるか。地方を拠点にターゲットを全国・東京他地域のニーズに対応できるか。**

**渋谷さん：**東京でのいまこの瞬間でのニーズが地方でのニーズになるかっていうと、正直違うケースも多いなと思っていて、地方では1年遅れで来るケースもあります。ただ、東京のトレンドを理解しているとそれが地方で生きますし、重宝されます。

**栗山さん：**僕もそう思います。TwitterやNewsPicksを見て知ったトレンドをローカルで展開するのは2~3年後でいいんだ、程度の時間の感覚でいいと思います。

**菊池さん：**逆もありそうな気もしていて、数こそ少ないものの、地方で実験したことが東京の会社で生きているというパターンもあります。東京だとコストが高くてリスクを取りにくいので、マーケティングの手法的にも定番の手法は東京から生まれるのですが、地方だとコストも低くチャレンジしたときのリスクも取りやすいので新たな手法は地方のほうが生まれやすいと思います。

**質問：地方で起業しやすい業種、またはキャリアを描きやすい職種はどのようなものでしょうか？**

**渋谷さん：**一旦地域の外に出た若い人の価値観でやれば、どの業種でも全く新しい現代風のものにアップデートさせられると思っています。海の家でも旅館でも酒屋でも。今の若い人の視点、感覚でしっかりやればどの業種でもうまくいくんじゃないでしょうか。

**栗山さん：**業種は何でもいいと思います。マインドでいうなら「フロンティアスピリッツ」を持っている人は、今の時代は大都市よりローカルのほうが合っているんじゃないでしょうか。

「フロンティアスピリッツ」があって得意なものを身につけている人はUターンや地方移住をしても大丈夫だと思います。

**菊池さん**：僕もお二方と同意見です。自分のスキルや知見を持っていて、自分で物事を考えられる人だったら地方に来れば稼げる可能性は高いです。ただ、地方で稼ぎにくい業種も一定数あります。地方は飲食業のレベルが高いですし、サービス業は新しく始める人よりも老舗とか家賃をペイしてる人がやっていたりするので高単価にしづらい場合もあります。圧倒的に食べやすいのはマーケティングや、クリエイティブ系などスキルが今に合っている人たちではないでしょうか。

**渋谷さん**：地方はIT企業が少ないので重宝されますよ。簡単にいうと「ブルーオーシャン」です。ビジネスは課題解決です。課題を解決できるITやマーケティング、クリエイティブ系の仕事は地方ではありがたいがられます。

**菊池さん**：外から参入したほうがやりやすいでしょうね。先ほどの話にあったように、地元では地元の人が評価されない、という側面もあるので。東京でこれやっていましたとか福岡市でこれやっていました、という人は絶対に飯が食えると思います。

**質問③：地域の方との関係づくり人脈作りにおいて、実際にされたことや心がけていることはありますか？**

**渋谷さん**：僕は団体みたいなのに入るようにしていて、経済同友会とか青年会議所などに加入しています。組織の枠を超えていろんな団体に行って、その共通ミッションの元に仲良くなることを心がけています。Uターン組は東京から来てるいし友だちもいなくてネットワークも少ないのが弱みになるので、その地域の組織にこっから入っていく必要があると思っています。

**栗山さん**：僕はそういう団体に入るのは苦手なので、積極的にコミュニティには属していません。ただ、僕が仕事で行くような5千人、5万人の町に行くと、スキルはあってもやっぱり「地縁の力」が強くて提案できないこと、いえないことがあります。僕みたいに忖度したくない人はある程度人口がいるところにいったほうがいいんじゃないでしょうか。

**菊池さん**：僕は両者のハイブリッドですね。経済界的な付き合いは苦手です。だからそれをちゃんとやっている社長さんと親しくしています。あとは、昔から行っていた地元のお店とも仲良くしています。僕が子どもの頃から知っているので年配の方が多いんですけど。そういうお店には今もよく行くので、利害関係がどうかじゃなくて常連的に仲良しです。

**渋谷さん**：どのやり方もありだと思いますよ。

視聴者からの質問への回答を終えると、菊池さんと栗山さんは退場し「角打ち座談会」は終了となりました。

放送終了直後、唐橋さんと渋谷さんは、声を揃えて「楽しかった！」と。おふたりとも、北九州のお酒とおつまみを楽しみつつ、北九州市で活躍する菊池さん、栗山さんに大いに刺激を受けたようでした。

渋谷さんは「北九州のお酒のおかげで、菊池さん、栗山さんとは今日会ったような感じがしなかった。場所は違うけど新潟との共通点もあったので、目指すところは同じだと思いました。今後連携していきたいですね」と、おふたりとの新たな取り組みに対し前向きに語ってくれました。また、番組を進行してくださった唐橋さんは、「おふたりとも自分のことだけじゃなく街のことをよく考えていたのが刺さりました」と笑顔で感想を語ってくれました。

お酒とおつまみはどうでしたか？との質問に、渋谷さんは「出たお酒は全部いただきました。あとピクルスが美味しかったです。買って帰りたくらい」と笑い、唐橋さんは「お酒にもおつまみにも個性を感じました。つい飲んじゃいましたね」と素敵なコメントを残してくれました。

一方、北九州からオンラインでの参加となった菊池さんに、これから地方で働くことを考えている人へのアドバイスを尋ねたところ「スキルさえ持っていれば地方でも仕事はありますが、東京のように仕事が細分化されていないので“総合力”が求められます。自分が持っているスキルだけでなく、営業やお金の話もできないと仕事を獲得するのは難しいかもしれません。自分のスキルや仕事のやり方を地方に合わせてカスタマイズすると良いでしょう」と、自らの体験を踏まえて具体的に語ってくれました。

栗山さんは「自分に合っているロールモデルを探しながら、コミュニティには無理しない程度に属したほうが良いのではないのでしょうか。移住に向けては外部にアンテナをしっかりと張って、世の中でどんな人が何をやっているのかチェックするといいと思います」と、移住前のポイントを語ってくれました。

ちなみに、菊池さんは「純米酒戸切」とさばのぬか炊きが、栗山さんは「遠賀の雫」とつぶウニが特に美味しかったそうです。

コロナ禍によりリモートワークが進み、どの地域にいても仕事ができる時代となったことから、今後は地方都市の存在感がより増してくることでしょう。今回の「角打ち座談会」が、今後地方都市で働くことを考えている方の参考になると幸いです。

#### 【出演していただいた皆様】

##### ▶フリーアナウンサー 唐橋 ユミさん

(TBS系列/「サンデーモーニング」、BSフジ/「感動！大相撲がっぴり総見」などに出演)

##### ▶フラー株式会社代表取締役会長 渋谷 修太さん

(グリー(株)を経て、2011年にデジタルパートナー事業を展開するフラー株式会社を創業。2016年には、経済誌Forbesによる若き重要人物「30アンダー30」に選出。2020年、本社を新潟に移転、同年9月末に会長職に就任)



▶菊池 勇太さん（オンライン出演）

（北九州市の門司港に合同会社ポルトを設立。ゲストハウス『PORTO』や飲食事業、メディア単体事業を手掛ける。また、合同会社阿蘇人（アソウト）の共同代表、岡野バルブ製造株式会社の社外取締役、大英産業株式会社の街づくり事業部アドバイザーも務めている。）

▶栗山 喬さん（オンライン出演）

（北九州市を拠点にAge-Cox代表として、サントリーウイスキー「白州」のプロモーション撮影や文化庁認定の日本遺産企画など、企業や行政団体のプロモーション企画・撮影を行っている。地域ブランディングの会社の株式会社しらすやまとの代表取締役も務めている。）